



ゆらがわ

舞鶴市立由良川小学校

学校だより 12月号

〒624-0955 舞鶴市字丸田74番地

TEL: 0773-82-0013

令和3年11月30日発行

きみとぼく ちがもすてきな たからもの

～人権標語 今年度の特選に選ばれた本校児童の作品より～

12月10日は「人権デー」、12月は「人権月間」です。本校でも11月15日～12月14日を入権月間として、取組を進めています。「人権月間はじめの集会」では、人権擁護委員さんより「種をまこう」の詩を紹介していただきました。この詩のように、子どもたちに大きな幸せの実がなることを期待しています。

ここで人権に関して、北原白秋さんの『ひとつのことば』を紹介したいと思います。



ひとつのことばで けんかして
ひとつのことばで なかなおり

ひとつのことばで 頭が下がり
ひとつのことばで 心が痛む

ひとつのことばで 楽し笑い
ひとつのことばで 泣かされる

ひとつのことばは それぞれに
ひとつのころを 持っている

きれいなことばは きれいな心
やさしいことばは やさしい心

ひとつのことば 大切に
ひとつのことばを 美しく



どんな言葉が悲しい気持ちにさせるのか、どんな言葉が嬉しくさせてくれるのか考えてみてほしいです。「うざい」「きもっ」「消える」そんな言葉が世の中から無くなり、「頑張ったね」「すごいね」「ありがとう」といったきれいな言葉が満ちあふれる学校や世の中になりたいですね。

しかし、言葉は心を表しているのをついつい「イライラしたり、相手を傷つけるような言い方になってしまったりする。」こともあります。そんな時にこそ、トゲトゲ言葉を口にする前に、「このことを言ったら相手はどう思うかな？」と考えてほしいです。そうする余裕があれば、きっといろんな人と上手に関われるのではないのでしょうか。

『ひとつのことば』を読むと、言葉の持つ力の大きさを感じます。高学年が学習した「スマホ・ケータイ人権教室」でも話題になってましたが、同じ言葉でも言い方次第で、真反対の意味になって誤解される場合があります。相手に嫌な思いをさせない話し方を心掛けたいものです。

また、東日本大震災が起こった時、テレビでは各社のCMは自粛され、その代わりに公共広告機構がいくつかのCMを流していました。その中に次のようなものがありました。

- 「こころ」は だれにも見えないけれど 「こころづかい」は見える。
- 「思い」は だれにも見えないけれど 「思いやり」はだれにでも見える。

- あいさつ魔法
「こんにちは こんにちはワン ありがとう ありがとうウサギ こんばんは こんばんワニ
さようなら さよならライオン まほうのことばで たのしい なかまが ポポポーン
おはよう おはようナギ いただきます いただきマウス いってきます いってきますカンク
ただいま ただいまンボウ ごちそうさま ごちそうさマウス おやすみなさい おやすみなサイ
すてきなことばで ゆかいななかまが ポポポーン あいさつするたび ともだち ふえるね」

- こだまでしょうか
「遊ぼう」っていうと 「遊ぼう」っていう。 馬鹿」っていうと 馬鹿」っていう
「もう遊ばない」っていうと 「遊ばない」という。
そうして、あとで、さみしくなって、 「ごめんね」っていうと 「ごめんね」っていう。
こだまでしょうか、いいえ、だれでも。 (金子 みすゞ)



当時はなんとなく目や耳にしていたのですが、じっくりと意味を考えると味わい深いものがあります。最後の金子さんの詩からは「誰でも独りぼっちで寂しい。そして、おそらくは『こだま』のように完全に心と心が同じように響き合えることはないだろう。けれど、それが人生だし、人は違っていても、通じ合えることもある、友達にだってなれる、そんな日が来るとどこかで信じている。」そんな思いを感じます。最近、新型コロナウイルス感染者が国内では激減していますが、海外からは変異ウィルスの発生等の知らせもあり、まだまだ先が見えてきません。そんな不安な日々が続きますが、子どもたちには人権月間を通して、「思いやり」や「やさしさ」を意識して育ててほしいと願っています。

これから寒くなっていきますが、心の中はあったかくありたいものです。

校長 中江 浩二
教職 員 一 同